

2025年度 札幌外科記念病院 看護職員の負担軽減計画

1、これまでの取り組み

当院は急性期入院基本料5を維持し、急性期における患者サービスに努めてまいりました。

新型コロナウイルス感染症以降、業務量は変化し多職種によるタスクシフトやICTによる業務改善を推進しているところです。

今後も地域の患者様およびご家族へ、より質の高い看護を实践するため、看護職員の負担を軽減し、以下の計画達成に向けた取り組みを行っていきます。

2、今後の目標

- ・ICTの導入推進
- ・働き続けられる環境の調整
- ・残業時間の削減
- ・看護補助者との協働推進
- ・専門職種との協働推進
- ・教育体制の確立

3、看護職員の勤務状況

	2024年2月	2024年10月	2025年1月
正看護師数	28人	37人	40人
准看護師数	1人	1人	1人
看護補助者	4人	12人	13人
月平均残業時間	不明	6.9時間	10.2時間

4、看護職員負担軽減目標及び達成状況

取り組み内容	項目	2024年度評価	2025年度 計画
業務量の調整	ICTによる業務負担軽減	電子カルテは、4月より導入の予定です。操作に不慣れな職員が多く、準備・運営には苦勞が予測されますが、なれて安定した稼働ができることで、業務負担軽減につながると考えております。また、他院では、スポットチェックモニターや離床センサーベッド・眠りスキャンの導入が効果があるようですので、情報収集を続け、次年度少しずつ導入の検討をしていきます。	電子カルテ：2025年4月より開始します スポットチェックモニターや離床センサーベッドなどの導入については、2025年5月以降で購入検討します
	勤務前後残業	業務マニュアルはおおたの作成され、各部署へ配布し、周知しました。引き続き、業務整理は行っています。	業務整理の継続と看護職員の入職促進・離職防止により、時間外勤務が抑制されるよう取り組みます
看護職員と多職との業務分担	放射線技師・臨床検査技師の患者搬送サポート	各技師により、検査前後の患者搬送は継続しています。また、業務量に合わせて、ベッドサイドでの検査も対応できています。	放射線技師・臨床検査技師による患者搬送やベッドサイドでの検査実施体制を継続します
	病棟薬剤業務	病棟に配薬カートを設置し、定期処方薬は薬剤師が配薬しています。その他、薬剤にまつわる業務も徐々に拡大していく必要があります。	病棟での薬剤管理などにおいて、業務が拡大するよう検討します
看護補助者の配置	看護補助者の配置および定着	徐々に増員でき、毎日夜勤の配置も可能となっています。定員まで採用を継続し、次年度は業務内容の整備をする必要があります。	看護補助者の定着と業務整理に取り組みます 看護職員と看護補助者とのタスクシェアを進めます
多様な勤務形態	フレックス・短時間勤務の制度、常日勤・夜勤専従の増員	部署の業務量に合わせた、多様な勤務形態の検討が必要です。	部署の業務量に合わせた勤務形態を、検討・導入していきます
妊娠・子育て中、介護中の看護職員に対する配慮	夜勤減免制度 育児短時間勤務制度	職員の生活に合わせて変更等の対応をしています。	勤務形態の多様化に対応し、個々のニーズに応じた働き方の継続をします
夜勤負担の軽減	看護補助者の夜間配置 病棟開棟などの病棟編成	看護師40名、看護補助者13名となり、各フロアに夜勤配置が可能となっています。増員と定着に伴い、病棟の開棟による2病棟編成を検討していきます。	病棟の夜間のケア業務に応じた看護師と看護補助者の配置や病棟編成を推進します
その他	看護補助者の教育体制の充実	教育担当者を担う看護師が少なく、未計画・不十分となっていました	教育委員会として機能させ、看護師・看護補助者リーダーと研修計画の立案と企画・運営を実践します
	メンタルヘルスケア	産業医の案内は全職員へ済み。次年度より相談窓口を設置予定です。	メンタルを理由にした休職をゼロにするのは難しいことですが、相談窓口を4月から設置し、早期からの介入につなげていきます